



読み聞かせで深まる「絵本」の世界

園長 太田 伸男

生後3か月の孫に絵本を読んであげると、絵を目で追うのは時々しかないので、語りを聞こうと耳を澄ましているのが分かります。私は、小学校低学年の頃まで母親から絵本を読んでもらった記憶があります。本の題名は覚えていないのですが、読み方に独特な抑揚がありました。私はその読み方が好きで、母親が絵本を読んでくれるのを楽しみにしていました。絵本の読み聞かせには、語り手と聞き手の心が交流するよさがあります。

市之瀬幼稚園では、読み聞かせを大切にしています。学級担任は降園前に毎日行い、「荻川読み聞かせの会」の方からは年5回実施してもらっています。子どもたちは、担任や読み聞かせの会の方の声にじっと耳を傾け、挿絵に目を凝らし、お話の世界に浸り込んでいます。



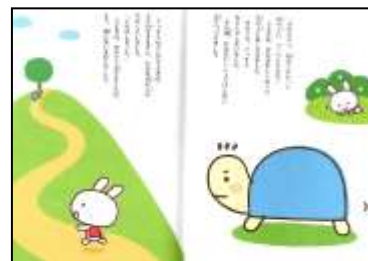
みんなで一緒に見たり聞いたりすると、一緒に聞いている子ども同士が共感し合い、みんなで聞く楽しさを味わうことができます。また、読んでもらった絵本に、特別な親しみを感じます。読み聞かせした絵本を保育室の書棚に置いておくと、子どもたちはその絵本をすぐに手に取り、何度も読み返しています。



9月7日の誕生会では、運動会が近いので、イソップ物語の『うさぎとかめ』の読み聞かせをしようと思います。

異年齢の子どもが集まるので、一人一人はそれまでの自分の体験に引き付けて感じ、考えると思います。本の挿絵に注目する子は、「頑張っているかめが、かわいい」。物語の展開を楽しめる子どもの中でも、かめに着目する子は、「遅くても最後まで走り続けたのはすごい」。うさぎに着目する子は、「途中で寝たから負けてしまった。次は寝ないで頑張るね」などと感じたり、考えたりすることでしょう。

絵本には友情や努力など生き方に関わるテーマで書かれたものが多数あり、大人が読んでも十分楽しめます。短時間で繰り返し読めて、そのたびに新しい発見があります。『うさぎとかめ』も、働き方改革を求められている大人が読めば、「かめのように休まず働き続けるよりも、うさぎのように休む時間を作り、しっかり休養するのも悪くない」と思うのではないのでしょうか。



保護者・地域の皆様も、時間に余裕がございましたらぜひ家庭や図書館などにある絵本を手にとっていただきたいと思います。子どもの頃とは、違った感想をもつことでしょう。そして、子どもたちに読み聞かせをしていただき、心の交流を図っていただければ幸いです。